

●この時期だからこそ、発見がたくさん。

暦の上では春を迎える2月。公園内の樹木、植物は寂しい季節ですが、来る春に向けしっかりと準備中です。この時期だからこそ、見られるものがあります。てくてく観察してみてください。

○ 個性色々、樹木の冬芽を見てみましょう

■冬芽にも種類があり、枝から直接葉が出てくる「裸芽」と、芽鱗という殻のようなものに覆われた「鱗芽」があります。

①トチノキ



・トチノキ科の冬芽（鱗芽）は、樹液で覆われて乾燥を防いでいます。駐車場②にあるアカバナトチノキの方が背丈が低いので観察はしやすいですが、遊具広場①にあるトチノキの方が、樹液が多く出ています。

③コブシ



・管理棟北側や桃林と中山台の間など、園内に点在するコブシ。この鱗芽の特徴は毛皮の芽鱗に覆われていること。ふわふわであたたかそうです。同じふわふわでコブシに似た冬芽のナツツバキ。このふわふわは茶色の芽鱗が落ちて裸芽状態になったものなんです。毛皮のコートを着ているコブシ、脱いたら毛深いナツツバキといった感じでしょうか（笑）

⑤イロハモミジ



・雪華園他、秋の公園を彩ったイロハモミジ。冬芽は左右で2つ対に、一定の間隔を開けて縦横角度を変えて規則的に付いているのが面白いですね。

・アカシデはたくさんの冬芽をつけ、芽鱗の数が多いのが特徴です。大きいのが雄花芽で、小さめで先が尖ったものは葉芽もしくは葉と雌花の混芽なんです。

⑥アカシデ



○ ちょっと変わった樹木の花

・街路樹としてもおなじみのメタセコイア。この丸いのはつぼみで、ここからつぼつぼした花序（花の集まり）が顔を出します。雌雄同株で先端の方で出る細長い物が雌花序です。富士見塚の西側⑦などにありますので、ぜひ開花の過程を確認してみてください。

⑦メタセコイア



⑧ハンノキ



・ハンノキがぶら下げている謎の物体も雄花序です。花序の中でも尻尾のように垂れ下がるものを尾状花序と呼びます。雌花序は小さく垂れ下がらないのでわかりにくいですが、探してみましょう。公園南側の獺橋付近⑥に多くあります。



花桃（矢口）

紅梅

●開花が待ち遠しいつばみ（梅・花桃・桜）

■3/20からの桃まつりを控え、花桃のつぼみも準備中。また今年は民家園南側に18本の梅が植樹され約5年ぶりに梅林が復活しました。3月には開花予定です。

○ この時期にキレイな花

ロウバイ



・「やっぱり花が見たい」という方は民家園へ。東側から入って右奥には葉のない枝に黄色の花をつけるロウバイ。

蟬梅と書くので梅の仲間（バラ目バラ科）と思われがちですが、クスノキ目

ロウバイ科で遠い種類なんです。茶畑側にはかわいい乙女椿がこれからどんどん咲きます。民家園の他にマップの★の場所にも少しありますよ。

●公方様の森で発見（ヤママユの繭）

ヤママユは日本在来の蛾の一種です。この繭一つで約600mの絹糸が採れるそうですが、現在市場に出回っているものは全て人工飼育されたもので、野生のものではないそうです。

ちなみにこのヤママユは、成虫になると口が退化し、一切餌を摂らず、幼虫時に蓄えた栄養だけで生きるんだそうですよ。

ヤママユの繭



●花はなくても見るものはたくさん。調べてみると楽しいですよ。てくてく情報、次号もお楽しみに！